

会長講演

日本の不良債権問題：展望

東京大学 堀内昭義

私の報告は、不良債権問題をできるだけ幅広い視野から展望し、その複雑さを叙述して、長期的視野にたった政策の可能性を分析することを目的としている。第1節では、全国銀行において新規の不良債権の発生が目立っている点を指摘する。第2節は、日本の不良債権問題の解決が、なぜ長期化しているかを説明するいくつかの要因を考察する。第4節は、銀行の長期的停滞と不良債権問題を考える場合に、銀行の自己資本の減耗という側面が無視できないことを強調する。この観点からは、不良債権の最終処理ではなく、自己資本の増強が重要であることが分かる。第5節は、以上の議論の要約として、現在の時点で追求されるべき対応策について考察する。